No.33
February
2007
Tokushima
Prefectural
Museum

徳島県立博物館友の会会報

アワーミュージアム

第33号　2007年2月28日発行

私とネパール

真鍋（まなべ）　憲昭（のりあき）（友の会会員）

私は山登りが好きで，「徳島山と友の会」に所属していました．その会の会長が「徳島ネパール友好協会」を設立するというので私も参加しました．友好協会でこれまで実施した事業は「小型水力発電所の建設」「消防車の寄贈」「ネパール少年少女のホームステイ」などです．

また，私が発起人となって，経済的に恵まれないネパールの子どもたちへの教育支援「里子･里親の奨学（しょうがく）事業」も行っています．現在16組の里子・里親ができています．平成17年末，18年末に私は子どもたちに会ってきました．向学心旺盛（おうせい）な子どもたちばかりで，これまで奨学資金を送り続けて良かったと思いました．資金は直接現金で配布せず，現地のカウンターパートのNGOが学用品・教科書・制服・校納金として支出することにしています．現金を保護者に渡してしまうと教育以外の生活費に使ってしまう可能性が高いからです．

首都カトマンズから南に15kmほど離れた所に里子たちが通っているチャルナケル小学校があります．車でわずか30分ほどの距離ですが，完全に田舎の学校です．教室は５つありますが，１つの教室の広さは６m×６mで，窓ガラスも電灯もなく暗いです．水道もトイレもありません．まるで倉庫のようです．１教室に40人ぐらいの子どもたちが勉強していますが，教室の中には小さな黒板が１つあるだけで，教材は何もありません．机は３～４人掛けで，子どもたちは肩を寄せ合って座っています．教科書などの本が持てず，メモ帳程度のノートと鉛筆だけしか持っていない子どももいます．低学年の児童はたくさんいますが，最高学年（５年生）になる頃には児童数も３分の１程度に減ってしまう状況です．これは，学年が上がるにつれて子どもを労働力として家庭で使ったり，教科書代や校納金などのお金が払えないことがその要因だと考えられます．勉強したくても勉強できない子どもたちに，少しでも支援ができて良かったと思っています．私の里子は13歳のボスンダラさんです．英語力がずいぶんと身につき，私と会話ができるようになりました．彼女の好きな教科は算数，趣味は勉強で，将来は学校の先生になりたいと言っています．とても嬉しいことです．

この支援活動を始めて６年になりますが，里親の高齢化の問題や学校をやめる里子の問題なども含めて，現在，この奨学事業も見直しの時期が来ています．私としては経済的な援助ばかりでなく，直接，より教育的で精神的な支援をしていけたらと考えています．以下に記しましたのは，「里子･里親の奨学事業」に参画している里親への報告新聞を一部抜粋（ばっすい）したものです．博物館の友の会会員の皆様方にもご覧いただければ幸いです．

1　教育支援 in NEPAL　2006年１月３日発行

12月24日から31日まで，妻と二人でネパールに行ってきました．皆さんからお預かりした教育支援金･文房具･手紙などを手渡しました．私も文房具やカルシウムたっぷりの「さかナッツ」を準備しました．25日にチャルナケル小学校まで行きました．大勢の里子たちが集まっていました．２時過ぎには早くも山影となり，とても寒い所です．里子の中には薄いシャツ１枚，裸足（はだし）にゴム草履（ぞうり）の子どもがいました．子どもたち一人ひとりに，日本から持ってき

た文房具などをプレゼントしました．また，ウッタムさんとロヒトさんが準備してくれていた新しい制服とセーターもプレゼントしました．ウッタムさんたちはノートなどの点検も必ず行っています．子どもたちもよく勉強しています（図１，２）．

図1　チャルナケル小学校にて

図2　ノートを見せてもらう

現在，私たちの里子16人と滋賀県の上野さんが世話をしている40人余りの約60人の里子たちを，ウッタムさんたちが教育支援してくれています．私の里子ボスンダラさんも12歳になり，体も大きくなりました．２年前は背も低く，本当に痩(や)せていましたが，今日は乙女の兆(きざ)しを感じました．教科書はボロボロになっていましたが，ノートにはぎっしりネパール文字を書き込んで，よく勉強していました．しかし，この寒空にゴム草履(ぞうり)と薄いシャツ，ボロボロのセーターでした．かわいそうで思わず涙が滲(にじ)んできました．この子がある程度大きくなるまで支援していこうと改めて思いました．

チャルナケル小学校は，まるで倉庫か畜舎のようでした．窓は小さく，窓ガラスは入っていません．もちろん電気もガスも水道もありません．ウッタムさんが壁に白のペンキを塗ってくれたので多少は明るくなりましたが，雨の日には黒板の文字は見えないと思われます．床は土の土間です．それでもこの学校は道路のすぐ近くなので，まだましです．奥の学校は，すべて徒歩でなければ通学も運搬もできません．これがネパールの公立学校の普通の姿です．

私たちの教育支援活動は地味ですが，継続が命だと思います．わずか１週間のネパール訪問でしたが，多くの経験と感動が得られました．里子たちに直接会うことで支援の成果が実感できました．今年も教育支援をお願いします．里親の皆さんにカレンダーと絵葉書を送ります．

2　教育支援 in NEPAL　2007年１月７日発行

今回も暮れの24日から31日まで，ネパールへ妻と二人で行ってきました．皆さんからお預かりした教育支援金･手紙などを手渡しました．支援金の一部で文房具やカルシウムたっぷりの「さかナッツ」を準備しました．私は靴下やタオルなども持参しました．25日にチャルナケル小学校へ行きました．期末テストが午前中に終わった後なので，急きょ学校に里子たちを集めてもらいました．ほとんどの里子に会うことができました．しかし，ボスンダラさんは親戚(しんせき)の家に出かけていていませんでした．一人ひとりに文房具などのプレゼントを渡しました．また，昨年写した写真も全員に配りました．この１年間でずいぶんと成長したことが，本人にもよく分かったと思います．ウッタムさんたちは，ノートや成績の点検を行ってくれています．また，遠足で植物園などへも連れて行ってくれているようです．どの子どもたちもよく勉強しています．

私は旅行の最終日に，ボスンダラさんに会うため，もう一度チャルナケル村へ行きました．彼女の家は広さ10坪足らずの物置き同様の家でした．電灯が１つありましたが，家の中は真っ暗です．祖父母は私と同年代ですが，70歳代半ばに見えました．ボ

スンダラさんも13歳になり，背が伸びて女性らしさが感じられるようになりました．父母と話をしていると，ボスンダラさんがミルクティを出してくれました．砂糖たっぷりで，心まで甘くなってきました．帰りにはお父さんからネパールの梅をいただきました．里子が一生懸命勉強しているのを，この目で確かめることができました．里子とその家族の感謝の気持ちが直接伝わってきました．里子たちに直接会うことで，支援の成果が実感できます（図３）．

ポカラの障害児教育施設シスビカスケンドラと幼児園ジョティケンドラを訪問しました．大木神父様と川岡シスターのお二人が中心になって30年近く運営しています．立派なお方です（図４）．

日本のNGOが設立したカカニにあるブライター小学校も見学してきました．立派な校舎で，ネパール人教師のスタッフも揃っています．今回の訪問で，更なる継続的な支援の必要性とともに，現地での人材育成も重要なポイントだと改めて感じました．

図3　中央が里子ボスンダラさん

図4　中央が大木神父さん

博物館のススメ

石原　侑（友の会会長）

志賀島（福岡県）出土の金印は，かつて殿様の黒田家のものだったが，現在は福岡市に寄贈され，福岡市博物館にある．この金印は弥生時代の貴重な資料として，全国方々の博物館でレプリカが展示されている．九州国立博物館もその１つだが，近くでは和泉市の大阪府立弥生文化博物館にもある．

また，弥生時代の資料として銅鐸も欠かすことができないが，全国から出土しているわけでもないから，これもレプリカが並ぶことになる．よく銅鐸を吊して木槌で叩くようにしてあるが，乱暴に叩かれても壊れなくて，良い音が出るものを造るのは簡単ではないので，だいたいが神戸市の桜ヶ丘遺跡から出土した銅鐸の復元模型である．実物は神戸市立博物館にあり，神戸大学への登り口の出土地には，最近，モニュメントができている．

古くから多数の銅鐸の収蔵で知られているのが，西宮市の辰馬考古資料館である．新しいところでは，明治時代の鉄道工事や戦後の新幹線工事で出土した銅鐸が，レプリカであるが展示されている滋賀県の野洲市歴史民俗博物館も銅鐸の博物館として有名である．鉄器は腐食するので残りにくく，青銅器ばかりが目立つようだが，それでも銅剣や銅矛を見る機会は少なく，特に昔から好事家に所蔵される銅鏡は見ることが難しい．

別子銅山を経営した住友家の収集の規模には及ばないが，神戸市東灘区の白鶴美術館も古代青銅器の逸品を所蔵している．青銅器は形態だけでなく，古代の文字資料としても貴重なものである．泉屋博古館は，古代中国青銅器の収集で有名である．

京都の「哲学の道」近くにあるので，機会があれば一度訪れてほしい．

友の会行事報告

高丸山のブナ林を見に行こう

◎日　時　１０月２２日（日）８：４５～１６：３０
◎場　所　高丸山（勝浦郡上勝町／那賀郡那賀町境）
◎日　程
　８：４５　文化の森バス停集合
　９：００　出発
　１１：００　高丸山駐車場着　高丸山散策
　１４：３０　高丸山駐車場発
　１６：３０　文化の森帰着・解散
◎行事担当者
　南部　洋子（友の会役員）和田　賢次（友の会役員）
◎参加者　28名
◎概　要
　平成16年４月に『徳島県千年の森づくり推進事業』対象地区に選ばれ，「県立高丸山千年の森」がオープンした標高1,438m の高丸山の中腹にはブナの原生林が豊かに広がっている．
　今回はブナ原生林をはじめ，トチノキ・カツラ・ヒメシャラ・シロモジ等の木々が伸びやかに枝を広げる紅葉の季節に高丸山を訪れ，幻想的な霧が流れる中での散策を楽しんだ．

参加者の声

○片岡　ツルエ（友の会会員）

あいにくの雨のため，高丸山に登ることを断念し，頂上を極めることができなかったのは心残りでしたが，ブナ林をゆっくりと観察することができました．幻想的な霧がたちこめる自然の中を歩きながら，「もののけ姫」の映画で見た森の中のシーンを思い出しました．

案内された方が，植物の名前をよく知っておられることに感心いたしました．学芸員の方にも資料などをいろいろと準備していただき，ウツギの笛を作ったり，ブナやモミジの種類について楽しく学習することができました．

○日下　静代（友の会会員）

霧の高丸山ブナ林は，心身を癒す最高の一日でした．ご案内くださいました地元の方の爽やかさも心に残ります．ウツギの笛作りに一生懸命になる自分を再発見しました．これからもチャンスを逃さないよう，友の会の行事に参加していこうと思います．

○近藤　惠子（友の会会員）

ブナ林ツアーは，とても素晴らしいものでした．ブナ・カエデ・ケヤキ等の年代を経た美しさ．また，足元の草木たちの豊富で可愛かったこと．落ち葉を踏む足元に低く小さくしっかりと根を張って蕾を持っている姿は，凛としたものさえ感じられました．

学芸員さんとガイドさんの行き届いたお世話ぶりにも感謝です．特にウツギの笛を全員に経験させるべく，冷たい地面に坐って何枚も何枚も剥いでくださって本当にありがとうございました．天候の変化もおもしろく，大自然を満喫して，命の洗濯とはこのようなことかなと思いました．帰宅して，さっそく県外の友人にガイドのコピーを送りました．

○多田　重利・かずみ（友の会会員）

高丸山へ向かう車中では，小川学芸員が語る各種のカエデの話や「桜はなぜ春に咲くのか？」，また，植物の「毛」についてなど愉快な蘊蓄に耳を傾け，何度も「へぇー」ボタンを押しました．あいにくの小雨模様でしたが，ブナ林散策チームに加わり，覚えきれないほどたくさんの山野草や樹木の名前を教えていただきました．

大木が林立する樹林に乳白色の霧が流れて，所々に見られた紅葉と相まって幽玄の世界に佇む思いでした．天高く聳えるケヤキの巨木にも驚きましたが，かれんな花を咲かせたシロヨメナやアサマリンドウ，センブリなどが印象に残りました．

○松家　京子（友の会会員）

高丸山は初めてだったので，当然山頂を目指すコースに参加しました．いざ出発という時の雨には驚きましたが，ブナ林は霧がかかって，いっそう幻想的で神秘的で・・・.「こんなブナ林もいいなあ.」という声が多かったです．紅葉の具合もよろしくて，落ちている黄葉や紅葉を拾うやいなや植物名をすぐに教えていただけるというのは，博物館の行事ならではないかと思いました．しかし，次々に教えていただいた割には余り覚えていなくて，記憶の底に残っているのは「シラキ」「シロモジ」「アサマリンドウ」だけです．

高丸山の山頂は霧のため，ほとんど視界がきかず

残念でしたが，そんなに風もなく寒くもなく，転ばずに登ることができて良かったです．思っていたほどきつい山ではなかったので，時期をかえて，また行きたいと思っています．楽しい高丸山でした．

○森（もり）　マスミ（友の会会員）

高丸山のことは以前から話に聞いていたので，一度行きたいと思っていました．今回は散策コースに参加したので，次回はお天気の良い日に頂上まで登ってみようと思います．

毎回のことながら，ボランティアガイドさんを頼んでくださるおかげで理解が深まり，楽しく，しかも安心して行動ができます．笛作りも楽しめました．麓（ふもと）の「八重地（やえじ）」のお正月迎えの行事がおもしろそうなので，できたら企画してくださるとありがたいです．

○行成（ゆきなり）　正昭（まさあき）（友の会会員）

山の天気に変化はつきもの．少し霧のかかった天候でしたが，大きく成長したブナ，トチノキ，カツラ，ヒメシャラ，カエデ類などの樹木がつくる森の荘厳（そうごん）さに感動を覚えることができました．

今までに何度かここを訪れたことがありましたが，千年の森ふれあい館の方の情熱的な説明を聞き，「ここがこんなに素晴らしいところであったのか．」と改めて気づかされました．

自然の森は，訪れるたびごとに表情を変えてくれます．四季折々に，同じ場所を散策するのも楽しいことだと思います．

高丸山のブナ林

友の会行事報告

国指定名勝
阿波国分寺の石庭を歩こう

◎日　時　１２月３日（日）１３：００～１６：２０

◎場　所　徳島市国府町

◎日　程

１３：００　徳島市立考古資料館展示解説
「よみがえる古代の南海道」

１３：３０　徳島市立考古資料館集合・出発
阿波国分寺の石庭見学
阿波木偶館の見学

１６：２０　徳島市立考古資料館帰着・解散

◎行事担当者　多田　精介（友の会役員）

◎参加者　２３名

◎概　要

741（天平13）年，聖武天皇が天下泰平を祈願して全国66箇所に建立した国分寺の１つで，大僧正・行基が建立に当たった阿波国分寺．戦国時代に長宗我部氏の焼き討ちで消失し，その後は廃寺となっていたが，1741（寛保元）年に阿波藩の命で再建され，現在に至っている．

創建当時の遺構が埋没する境内や全国古庭園随一の巨石が並ぶ阿波国分寺の石庭を散策したり，徳島市立考古資料館・阿波木偶館を訪問・見学するなど，初冬の午後を有意義に過ごした．

参加者の声

○加古（かこ）　吉文（よしふみ）（友の会会員）

ぜひ見学してみたい史跡の１つであった国指定名勝「阿波国分寺庭園」を鑑賞する機会に恵まれ，たいへん感激しております．阿波産の緑色片岩（りょくしょくへんがん）をふんだんに使用して，荒々しく築庭された180°の大パノラマには眼を見張るばかりでした．

阿波国分寺の石庭

去る９月23日に見学した一乗谷朝倉氏庭園とされる４つの庭園を１か所に集めた以上の規模のように感じました．殊に洞窟石組・三尊石組・巨石石組は，他の庭園では見られない珍しい物で，メインとなる石の寸法まで記載した研修資料には頭が下がりました.作庭時期は桃山時代の頃とされていますが，作庭者名や作庭の目的，築庭者が不詳であることが残念です．

○川辺　節子（友の会会員）

広い園いっぱいに切り立った石の造りに，昔のお庭師さんの知恵や創造力に思いを馳せながら，感慨深く見入りました．中央公園とはまた違う特別な，日本には稀な文化・徳島の誇りを今まで見逃していた，いや知識がなかったのが恥ずかしい次第です．

人形恒さんの素晴らしい技に今まで関心がなかったとは！　お里・沢市の文句を父が口にしていた自分の幼い頃のことを思い出しながら，今にして竹本朝輝氏の語りを聞かせていただき，文化人・土地柄・徳島の素晴らしさを再考いたしました．

○久次米　義文（友の会会員）

今までは柵越しに何度も垣間見たけど入れなかった国分寺の珍しい石組みだけの庭を，今回，友の会の企画で拝見することができたばかりか，滅多にない住職の説明まで聞かせてもらい，長年の望みが一挙に叶えられ，喜んでおります．

○東條　知賀子（友の会会員）

国分寺を参拝すると，いつも本堂左側の石庭をのぞき見しましたが，その立派さが理解できませんでした．このたび正面より拝見させていただき，豪華な大庭園に圧倒されました．また，住職さんの石庭を守る熱い思いをお聞きし，感動しました．近々修復されるとのこと，楽しみにしています．

○中野　勝文・滋美（友の会会員）

古代の県都を歩き，非公開の国分寺の石庭を拝観させていただきました．雄々しさ，勇壮さにも驚きましたが，懇切丁寧な説明がとても有意義でした．

阿波木偶館では，木偶人形を直接触らせてくださり，近くでゆっくりと見ることができました．木偶人形の顔や表情は恐ろしいとか可愛いだけでなくもっと深いもので，生きる哀しさ，厳しさ，辛さなども表していることを初めて知りました．

○林　公代（友の会会員）

お天気にも恵まれ，たいへん有意義な一日を過ごさせていただきました．考古資料館・国分寺石庭・阿波木偶館と，それぞれご親切にわかりやすく説明していただき，見学もさせてくださいました．

阿波の歴史や文化の深さに触れ，楽しく充実した時間をもつことができました．これからもこれらが大切に保存されますよう願っています．

○若田　治良（友の会会員）

今年は，「虫送り」・「一乗谷」，今回の「阿波国分寺の石庭」と，友の会行事は３回参加しました．いつも珍しく，且つ目線の違った企画で期待も高く，参加して満足しています．徳島に生まれながら，徳島の事物について体験や鑑賞をしていないことが多いなと思います．

住職さんの説明を聞く

石庭での集合写真

友の会行事報告

京都　日帰り研修の旅

◎日　時　１２月１０日（日）７：４０～１９：４０

◎場　所　京都府京都市：京都大学総合博物館
本能寺大寶殿宝物館

◎日　程

７：４０	文化の森バス停集合・出発
１１：２０	本能寺大寶殿宝物館の見学
１２：２０	昼食
	自由行動
１４：４０	京都大学総合博物館の見学
１６：００	京都大学総合博物館発
１９：４０	文化の森帰着・解散

◎行事担当者　石原　侑（友の会会長）

◎参加者　45名

◎概　要

応永22年（1415）日隆聖人が建立した法華宗大本山本能寺は，その時から現在まで他宗による破却や本能寺の変などの戦乱・大火などにより五度の焼失，七度の再建を繰り返し，その中で守り抜かれた宝物が展示されている．信長ゆかりの品々をはじめ数々の宝物を見学するとともに，午後は京都大学総合博物館において，湯川秀樹・朝永振一郎両ノーベル賞受賞博士の物理学の研究と日本の科学の発展に尽くした業績・足跡を記した「生誕百年記念展」を見学した．

参加者の声

○石原　侑（友の会会長）

本能寺の門前では「能」の字を確かめましたが，瑞泉寺の門の文字はどうでしたか？　右から三文字目は「確かめる」の「確」らしいです．

ドラマや小説でお馴染みの本能寺に行きましたが，ここに織田信長の墓があることを初めて知った人もいたようです．高瀬川の水音を聞きながら歩きました．瑞泉寺の豊臣秀次や妻妾たちの墓を見ました．実物に接するときのある種の感動を覚えませんでしたか？　湯川・朝永百周年記念展から感じるものも同じような感動のように思います．

○泉　加代子（友の会会員）

本能寺宝物館のチケットの写真にもなり，入ってすぐのガラスケースに入れられていた「三足の蛙」が印象に残りました．本能寺の変の前に，信長公に危険を知らせるかの如く突然鳴き始めたと伝えられているそうですが，本当に鳴き声が聞こえてくるようでした．自由行動では島津創業記念資料館に行きました．展示物を見ているうちに，田中耕一さんもあの環境があったからこそノーベル賞が受賞できたのだなあと思いました．京都の街を歩いて，久しぶりに落ち着いた気分になりました．

○大栗　須美子（友の会会員）

初めて参加しましたが，12月とは思われぬ暖かい日に楽しい旅ができました．京大博物館は難しくて理解できませんでしたが，発掘調査の出土品（殊に石棺）にはびっくりしました．観光とはまた違う高瀬川沿いのゆっくりとした時間，本当に有意義な一日でした．

○大杉　天斗（友の会会員）

京都の日帰り研修に行って，とても楽しかったです．京都の歴史がよくわかりました．

○川上　左恵子（友の会会員）

目的地の名のみしか知りませんでしたが，そこに立ち，見ることができて歴史の跡を忍びました．生誕百年記念展のお二人のノーベル賞受賞のことも．時間の都合で慌ただしい一日でしたが，感謝感激しました．

○川田　浩司（友の会会員）

プリント等の資料が十分でした．名札を準備してくれていたので参加者の氏名がよくわかり，たいへん良かったと思います．本能寺は歴史的には有名ですが，観光客が思っていたより少なく，閑散としていました．私が一番期待していた京都大学総合博物館の「湯川秀樹・朝永振一郎生誕百年記念展」ですが，私にとっては，ただ資料を並べただけの物足りない記念展でした．湯川博士の「中間子論」、朝永博士の「くりこみ理論」を立体的なモデルで展示してほしかったです．自由散策の時間に訪ねた島津創業記念資料館に，田中耕一さんがノーベル賞を受賞した「レーザーによる分子イオン化の仕組み」が展示されていましたが，これも立体的なモデルがあればと感じました．ビデオを観たかったのですが，時間がなくて見えず，残念でした．

でも，高瀬川に浮かぶ高瀬舟は情緒豊かで往時が偲ばれ，楽しい旅行でした．今回の旅の企画には満足しています．

○島　美代子（友の会会員）

充実した資料に頭が下がります．地図を片手に散策したのもワクワク感があり，会員相互の親睦も深まって良かったと思います．欲を言わせてもらうと，もう少し時間があればと思いました．

○中島　世志男（友の会会員）

あの都会の喧噪の中に一歩入ると嘘のように静まる本能寺の一角に，改めて思いを深くしました．京都は，仕事柄数え切れないほど通った街です．ほろ酔いで夜更けて歩き廻った木屋町，祇園の街灯りと厚化粧の仮面の世界しかない面影を振り払って，落ち葉の流れも爽やかな寝惚色から覚めたようにも見える高瀬川の両岸を，何故か気持ちよく歩きました．ロイヤルホテルの中華バイキング，癖のないさっぱりした味の美味しさでした．何度か宿泊したのですが，朝食の味しか知りません．

それにしても科学は苦手です．考古学資料のユニークさとその展示に惹かれて，そちらの方ばかりが気になった京大博物館でした．今は奈良文化財研究所の方が華やかな活動で目立っているように見受けられますが，その視点における評価は大いにできると思います．メインテーマのノーベル賞では，唯一カミオ・カンデのニュートリノについてのみ印象を交えてゆっくり読みました．以前，地下研修施設を見学に行って，こんな所に日本の頭脳を集めて大勢の人が努力している姿に感嘆したからです．

○林　タキ子（友の会会員）

メインの「湯川・朝永生誕百年記念展」の理論は理解できるはずがないけれど，写真や趣味などのプロフィールの展示で，両博士を身近に感じることができました．この秋，受賞後のパーティー会場であるストックホルムのCity―hall を見てきたこともあり，いつになくノーベル賞に関心を持った年になりました．

○森　郁代（友の会会員）

本能寺も京都大学も，私にとりまして初めてのことにて，見るもの・聞くものすべて感動させられ，心引き締まる思いでした．

豊臣秀次の御廟，坂本龍馬の寓居，藩邸跡などを興味深く見学しました．それに高瀬川周辺の散策も私にとりまして懐かしい思い出を蘇らせてくれました．良き旅を授かり，楽しい一日を過ごすことができました．

○吉見　勝之（友の会会員）

行った！　見た！　良かった！　本能寺80点，時間を守って！　昼食の量100点，味60点．自由行動70点，もう少し時間がほしい．錦市場で東京都文京区からやって来た学生に市場の名産を教えたが，おもしろかった．できたら２時間はほしかった．京都大学総合博物館70点，時間が足りない．自然史系展示が見えなかった．バス100点、運転・ガイド・会長の解説，ともに満足．研修のしおり100点，すごく良かった．総合80点．

本能寺・信長公廟前にて

徳島県立博物館友の会会報
アワーミュージアム
No.33
February 2007
Tokushima Prefectural Museum

第33号

2007年２月28日発行：徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山　徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636　FAX 088-668-7197
E-mail：mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp